

**テーマ：2011年1-3月期GDP（1次速報）予測  
～震災の影響により2四半期連続のマイナス成長～**

発表日：2011年4月28日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL:03-5221-4528

## ○ 前期比年率▲2.4%と、2四半期連続のマイナス成長を予想

2011年1-3月期の実質GDP成長率（5月19日公表予定）を前期比年率▲2.4%（前期比▲0.6%）と予測する。1～2月までの景気は底堅く推移しており、震災がなければプラス成長が展望できる状況にあったが、大震災の影響により3月の経済活動が急激に冷え込んだ結果、2010年10-12月期に続いてマイナス成長になったものと予想される。サプライチェーンの寸断や電力不足の影響から輸出や設備投資が減少した可能性が高いほか、マインドの冷え込みから個人消費が減少したと思われる。災害救助費用の拡大から政府消費は高い伸びになったとみられるが、民需の落ち込みをカバーしきれない。

なお、この予測値は、4月28日時点で入手可能な経済指標を元に作成している。5月10日公表の家計消費状況調査、12日公表の国際収支統計の結果を踏まえて、5月12日に改めて予測値を改定する予定である。

## ○ 需要項目別の動向

輸出は前期比▲0.2%と小幅減を予想する。サプライチェーンの寸断等の影響で3月に輸出向け生産が滞った結果、3月の輸出が大きく落ち込み、1～2月の増加分を吐き出す格好になった。なお、供給制約による輸出への悪影響が最大化するのは4月になるとみられ、4-6月期の輸出は大幅な悪化が避けられない。

設備投資も前期比▲1.8%と悪化した模様だ。供給制約の影響で投資用の出荷が滞ったことが影響している。4-6月期も悪化が続く可能性はあるが、企業の投資マインドは今のところ大きくは落ち込んでいないとみられ、7-9月期以降には持ち直しが期待できる。

個人消費も前期比▲0.3%と2四半期連続で減少が見込まれる。震災の発生に伴うマインドの急激な冷え込みにより、不要不急の消費が激減したことが影響している。また、供給不足から自動車販売が落ち込んだことも響いた。

公共投資も前期比▲1.2%と減少したとみられる。2010年度補正予算の効果が一部顕在化しているが、3月には被災地域での公共工事が進捗しなかったことから、小幅マイナスになったと思われる。

一方、政府消費は災害救助費用の増加から前期比+0.7%と高い伸びになったとみられるが、民需の落ち込みを補い切るには至らなかった。その他、住宅投資は前期比+1.0%と3四半期連続で増加したとみられる。

## ○ 4-6月期はさらに悪化幅が拡大へ

このように、2011年1-3月期のGDPは2四半期連続のマイナス成長になったとみられるが、震災の影響は4-6月期に最も大きく顕在化するとみられることに注意が必要である。4-6月期はマイナス成長が必至であり、マイナス幅も1-3月期からさらに拡大する可能性が高いだろう。供給制約に伴い輸出が大幅に落ち込むほか、個人消費も減少幅を拡大させる見込みである。2011年前半の景気の悪化度合いは極めて大きくなるだろう。

## 2011年1-3月期GDP予測

		(%)
実質GDP	▲0.6	
	▲2.4	
(前期比年率)		
内需寄与度	▲0.4	
(うち民需)	▲0.5	
(うち公需)	0.1	
外需寄与度	▲0.2	
民間最終消費支出	▲0.3	
民間住宅	1.0	
民間企業設備	▲1.8	
民間在庫品増加(寄与度)	▲0.1	
政府最終消費支出	0.7	
公的固定資本形成	▲1.2	
財貨・サービスの輸出	▲0.2	
財貨・サービスの輸入	1.2	
名目GDP	▲0.7	
	▲2.7	
(前期比年率)		

※断りの無い場合、前期比(%)  
 (出所)内閣府「国民経済計算」